

会 議 録

会議名	第 5 回 山陽小野田市特別職報酬等審議会
会議日時	平成 2 8 年 1 月 2 1 日（木） 1 8 時 3 0 分～ 1 9 時 1 5 分
開催場所	市役所 3 階 議会会議室 2
出席者	大空軍治会長、小松文子委員、塩田賢二委員、田中俊朗委員、 温井允武委員、平中政明委員、藤村嘉彦委員
欠席者	長楽飛鳥委員、畑 善高委員、浜崎洋子委員、
事務局	総務部長 中村 聡、人事課長 城戸信之、人事課主幹 辻村征宏、 人事係長 山本満康
会議次第	議事 （１）答申（案）について （２）その他
会議内容	○事務局から 1 0 名中 7 名の委員が出席しており、山陽小野田市特別職報酬等審議会に関する規則第 5 条第 3 項の規定により会議が成立することを報告 議 事 【会長】 本日は、答申（案）の内容について審議する。事前に事務局から配布された資料により確認されていると思うが、全体を通して何か意見があればお願いしたい。 【委員】 3 付帯意見の（３）に「政務活動費の充実が必要ではないかと考えるので、これの充実について検討されたい」とあるが、これはどの場で検討されるのか。議員自ら増額要求することはできないものだと思うが。 【事務局】 政務活動費は、前回の会議で議員から説明があったとおり、議会ではいろいろな活動をしており、その上で必要な経費。付帯意見として答申に盛り込む。 議会事務局において予算要求し、執行部は妥当な額かどうかを検討し予算案を作り議会へ上程。それを議会で議論され決定する。議会へは報酬審議会付帯意見として答申があった旨を伝える。 【委員】 3 付帯意見の（４）各種審議会の委員報酬の額は、どこで検討するのか。

【事務局】

人事課で検討し、財政へ予算要求し、執行部で協議する。

【委員】

各種審議会の委員報酬の額は、元々5,300円を職員の給与カットに合わせて1,000円とし、平成25年度に2,000円に改定。金額目当てで委員になるというものではないが、3付帯意見の（3）議員の政務活動費同様、適切な額としていただきたい。大学の教授でも2,000円では失礼ではないか。

【委員】

議会の政務活動費は議員が議論するであろうが、委員報酬の額は、議論・検討する場がない。他の市と比較しても歴然として低いし、本腰を入れて是非ともお願いしたい。

【委員】

このままでは絶対にいけない。委員として来ていただくのに気の毒。

【委員】

大学の教授でも2,000円では失礼。

【委員】

付帯意見（1）に「当面支給すべき報酬及び給料の額」が「本来支給すべき報酬及び給料の額」であるとも考えられるので、「本来支給すべき報酬及び給料の額」について、今後検討されたい。」とあるが、これはどうなのか。

【事務局】

前回までの会議で審議され、この会の委員総意として、市長等の給料の額及び行政委員会委員の報酬の額は据え置くとされ、その内容は答申（案）のとおり。ただし、会議の中で、本来支給すべき額について議論があり、付帯意見として盛り込んだもの。答申（案）本文ではないことから絶対にしなさいというものではない。

【委員】

答申本文と付帯意見の関係だが、「本来支給すべき報酬及び給料の額」もう少し工夫はできないか。

【委員】

本文で減額後の額を本来支給すべき額とすべきだと思うが、財政状況等を総合的に勘案し、この審議会では、額は据え置き、現行の減額措置を続けていくことが妥当であるとの結論に至った。前回あった市長には退職金があって、議員には退職金がないことに驚いたが、過去からの経緯もあり、それらも総合的に勘案した結果の額と減額措置の据え置き。この審議会は、2年ごとに開催されており、次回の審議会までは現行のままとし、景気・財政状況等が大幅に変われば、次の審議会でも議論すればよい。

【委員】

付帯意見で「検討されたい」となっており、必ずそうしてください

いとまでは言えないから、そういったニュアンスを含んだ文言としては適切だと思う。財政状況等が回復すれば減額措置を見直せばよい。

【委員】

本来支給すべき額と減額措置については、過去からずっと議論されている。この審議会で議論した記録だけは残していただいて、次の審議会で参考にしていただきたい。

【委員】

付帯意見には「検討されたい」とばかりあるが。

【事務局】

付帯意見は諮問された審議事項ではなく、また強制力があるわけではない。検討するよう投げ掛けるもので、こういう文言としている。

【委員】

付帯意見の結論については、報告があるのか。

【事務局】

委員の皆さんに結論を報告することはない。

【委員】

広報に掲載されるのか。

【事務局】

広報には掲載しないが、市のホームページには答申や議事録を掲載し、お知らせする。

【委員】

審議会は市長へ答申し、市長はその内容を勘案斟酌し、執行部において協議・検討を経て議会へ予算等を提出し、議会で決定するという流れか。

【事務局】

そうである。

【委員】

報酬については現行のままということだが、議員の政務活動費については、他市と比べ群を抜いて低い。是非、他市並みに増額するよう強く要望したい。

【委員】

この金額では何もできない。せめて月 10,000 円、年間 120,000 円くらいにすべきだと思う。

【委員】

議員は、議員活動する上で人を使ったり、パソコンや参考図書などを購入したり、いろいろお金がかかる。報酬は生活費であろうから、政務活動費を充実させ、もっと頑張ってもらいたい。

【委員】

差をつけることも必要だと思う。よく研究したり、勉強したり、市民のためにしっかり活動したりしている議員には多く出す、そうでない議員には少なく。無制限という訳にはいかないだろうが。

【委員】

6,000 円が多いのか少ないのか。10,000 円であれば十分なのか。現行では 6,000 円と決まっているから、それに合わせた報告しかない。議員一人一人が、政務活動費としてどれだけ必要なのかというのが分からない。平均これくらい必要と分かれば、金額は決め易いのであろうが。

【委員】

ある会派の収支報告書を見ると、支給額に合わせた遠慮した金額の報告となっている。項目には、調査研究費、研修費、広報費、広聴費、資料作成費、人件費、事務所費などがあり、本当はもっと経費が掛かっていると思われる。もっと増やすべきと思う。財政状況が許せばだが、予算を使い切れないくらいの額で示したほうが、議員はもっと活動するのではないかと思う。

【委員】

一所懸命活動している議員は現行の額では足りないから、報酬の中から活動経費を支出している人も多いと思う。資料を作成するには、パソコンやプリンターなどが必要だし、古くなれば買い換えなければならないし。

【委員】

政務活動費として必要な額を申請してもらい、認められれば支給する方法もある。政務活動費として認めるかどうかを審査する必要があるが。

【委員】

仕事をまともにするにはお金が掛かる。必要な額を支給するようにすれば、頑張っている議員には励みになると思う。

【委員】

現行の額ではボランティアと同じ。活動すればするだけお金が掛かるのだから。

【委員】

我々市民からすれば、議員には、もっと活動し、もっと頑張ってもらいたい。議会事務局は、頑張って予算要求していただき、執行部側もそれを認めていただきたい。

【委員】

議員にはもっと活動し、もっと頑張ってもらいたいという意見は皆一致している。そのためにも政務活動費を増やすことが必要。附帯意見（２）の「・・・政務活動費の充実が必要ではないかと考えるので、これの充実について検討されたい。」について、もう少し強いことばに変えられないか。

【事務局】

「必要ではないかと考える」を「必要と考える」に、「充実について検討されたい」を「拡充を強く要請する」にしてはどうか。

【会長】

政務活動費については、かなり強みが増した。そのように改めることとする。

	他の項目について意見はあるか。 【委員】 附帯意見の（１）、（２）及び（４）についてはこのままでよいと思う。 【委員】 答申本文については、１と２で文末が違う。２の文末「減額率を１０％とされたい。」については、答申であるから、１の文末と同様に「妥当であると判断した。」としたほうが良いのではないか。 【委員】 そのほうが良い。 【会長】 本日の会議では、改める内容は、全会一致である。 その他意見も出揃ったようであるし、答申書を本日議論した内容に改定していただき、それをもって市長へ答申することとする。
--	---